

復活を目指して

～復活のイエスに出会った男～

イエスの復活は事実か？

- イエスの存在と十字架による死は歴史的事実である
- イエスの弟子たちはイエスは復活した、と証言している
 - 復活の目撃者は生存の目撃者より少ない
- 復活したイエスに出会った人の証言
 - **パウロ** (3?~62?) キリスト教の最高の伝道者にして最初の神学者。「異邦人のための宣教者」とよばれた。
<Microsoft Encarta 97 Encyclopedia>

パウロの証言

わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。

しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。

〈フィリピ³章5~9節〉

パウロ

<復活したイエスに出会う前>

- 生粋のユダヤ人(選ばれた民)
- ファリサイ派に属する宗教家
 - ファリサイ派はイエスを死に追いやった首謀者
- 教会の迫害者
- 律法の義について非のうちどころがない者
 - 「律法」とは生活全般の行動を定めたユダヤ教の宗教法

復活したイエスとの出会い

さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。それは、この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するためであった。

ところが、サウロが旅をしてダマスコに近づいたとき、突然、天からの光が彼の周りを照らした。サウロは地に倒れ、「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」と呼びかける声を聞いた。「主よ、あなたはどなたですか」と言うと、答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。起きて町に入れ。そうすれば、あなたのなすべきことが知らされる。」同行していた人たちは、声は聞こえても、だれの姿も見えないので、ものも言えず立っていた。サウロは地面から起き上がって、目を開けたが、何も見えなかった。人々は彼の手を引いてダマスコに連れて行った。

パウロ

<復活したイエスに出会った後>

- 異邦人のための宣教者
- イエスの弟子
- 教会のために迫害された者
 - ローマで殉教
- 信仰による義を語り続けた者
 - 「行いによっては救われない」と力説した

パウロに起こった変化

- 価値観の変化

- 「わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。」

- 生き方の変化

- 迫害する者から迫害される者へ

- 信仰の変化

- 「わたしには、律法から生じる自分の義ではなく、キリストへの信仰による義、信仰に基づいて神から与えられる義があります。」

パウロの人生の目標

「わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです。わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。」

＜フィリピ3章9～12節＞